

## トキと自然の学習館

トキは、かつて日本をはじめ、中国、韓国、ロシアなどの近隣諸国にも生息していました。

現在では、佐渡島や長岡市寺泊の近くの沿岸部に生息する保護種となっています。

寺泊にあるトキと自然学習センターは、トキの保護活動の拠点となっています。このセンターでは繁殖と教育のプログラムを運営しており、野生のトキを回復し、これらの絶滅危惧種の鳥について一般の人々に知らせることを目的としています。センターでは毎日のように訪問者を受け入れていますが、その第一の目的は保護です。敷地内には若鳥が何羽もいますが、一般公開されているのは完全に成長したトキだけです。これにより、鳥はストレスのない安全な環境で成熟することができます。

トキと自然の学習館では、トキが成熟するまでの様々な変化をインタラクティブに展示しています。生まれた時には茶色の羽毛が生えている鳥です。2ヶ月後頃には黄色になり、5ヶ月後にはオレンジ色に変化します。そして、2年目を迎える頃になると、鶉色（トキの色）と呼ばれるオレンジ色に染まった独特の色が出てきます。

センター内の展示では、保存されたサンプル、骨格模型、コンピュータで生成された画像を使用して、成熟過程を案内しています。保全規則の為、トキのヒナを直接見ることはできませんが、訪問者は、巣から継続的に配信されている生中継映像でヒナの成長を確認する事ができます。

ヒナが成熟すると、佐渡島の野生に放たれます。センターでは、トキを放す際タグを付けて、それらを監視する事で、彼らの自然な移動パターンと行動習慣についての詳細を研究します。長い間、保護活動家は鳥類とそのライフサイクルに関する多くの研究を行ってきました。

島の湿原や森、田んぼなどは、トキの理想的な生活環境が整っています。トキは一般的に水辺近くの栗の木や松の木に生息しています。小型の淡水ガニを主食としています。トキは毎年2月に交尾をし、4月には最大5個の卵を産みます。ひよこは通常5月中旬に孵化します。

時々、トキは交尾の過程で助けの手を必要とします。ここで「トキと自然の学習館」の出番です。センター内の囲いの中には、成長したトキが5匹飼育されており、観察することができます。彼らがどのように交流し、時には喧嘩をし、彼らの性格の違いを示しています。ホタル（黄）、ノゾミ（青）、ヒカリ（赤）、シナノ（水色）、ケヤキ（緑）と、それぞれのトキに名前と色札がついています。

午後1時の給餌時間では、訪問者は野生の場合と同じようにトキが餌を探すのを見ることができます。スタッフが囲いの池に小さなドジョウを放流し、トキは長いくちばしで捕獲して食べます。また、午前9時には肉と野菜を、午後3時にはペレットを与えています。

1981年から長岡市と佐渡市では、地域のトキの復活を目指して繁殖プログラムを行っています。プログラムの拡大に伴い、個体数の安全性を確保するために日本の5つの地域に分散しています。もし、すべてのトキが一つの地域で飼育されていたとしたら、一度の災害や鳥類のウイルス感染がトキの数を壊滅的なものにしてしまう可能性があります。

長岡、佐渡のほか、東京都、石川県、島根県にも保護区があります。1999年には、中国から2羽のトキが寄贈され、保護活動がさらに活発になりました。これらのトキは繁殖に成功し、現在では458羽のトキが佐渡島に生息しており、そのうち、163羽は繁殖プログラムから、295羽は野生で生まれています。佐渡島から寺泊まで飛んできて、また戻ってくるトキが見られることも珍しくありませ

ん。島から本土まではフェリーで約 1 時間かかるが、トキの成鳥は 40 分で同じ距離を移動する事が可能です。

保護は地域の取り組みであり、寺泊、佐渡ともに地域の小学校と連携した教育プログラムを実施しています。このプログラムは、学校の子供たちに、トキの個体群を保護する役割を促進しています。トキと自然の学習館は、今でもその過程で重要な役割を果たしています。